

なす灰色かび病に注意！

1 発生状況

大阪府内の一部地域で、なすの灰色かび病が、平年と比べて多く発生しているとの報告がありました。

向こう1ヶ月、大阪府では降水量が平年より多い予報になっており、発生が増加する恐れがありますので、ほ場をよく見回り、発生に気をつけ、発病が認められた園では早めに防除を行いましょう。



▲果実の病斑



▲葉の病斑

2 生態と防除対策

- (1) 灰色かび病の病原菌(*Botrytis cinerea* Persoon)は糸状菌(カビ)の一種でトマト、なす、きゅうりなど多くの野菜類に感染する。
- (2) 気温20℃程度、多湿時に多発するので、多湿にならないよう換気に努める。
- (3) 病原菌は生きた植物を侵すだけでなく、咲き終わった花がらや、葉の傷んだ部分等によく繁殖し次の伝染源となるので、果実に付着した花がらは、早めに取り除く。取り除いた花がらや摘葉した葉は施設外に持ち出して処分する。
- (4) 薬剤散布は日中を避け、散布後は十分に薬液が乾く時間を考慮して換気を行い、ハウス内の湿度が上がらないようにする。
- (5) 同一薬剤の連用は耐性菌の発現を助長する恐れがあるため、異なる成分の薬剤のローテーション散布を行う。(参考: 下表1)
- (6) 薬剤散布に当たっては、ラベルを確認し、収穫前日数や使用回数を十分確認する。

表1 なすの灰色かび病に適用のある農薬(例)

薬剤名	成分名(FRAC)	希釈倍数(倍)	使用時期	本剤の使用回数
セイビアーフロアブル20	フルジオキシニル(12)	1,000~1,500倍	収穫前日まで	3回以内
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ(10) チオファネートメチル(1)	1,000~1,500倍	収穫前日まで	5回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ(11)	2,000~3,000倍	収穫前日まで	3回以内
ピクシオ DF	フェンピラザミン(17)	2,000倍	収穫前日まで	4回以内
パレード20フロアブル	ピラジフルミド(7)	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内

農薬の最新情報は、農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システムで確認してください。

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)